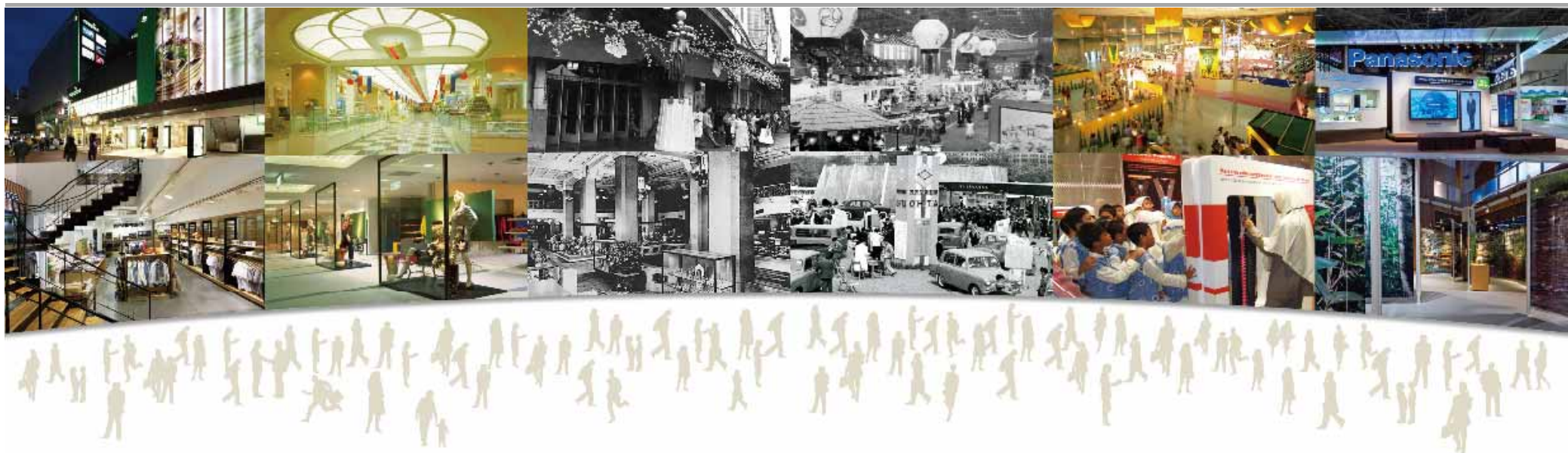


株式会社 乃村工藝社



2012年2月期（平成23年度） 第2四半期決算 補足資料

証券コード: 9716

<http://www.nomurakougei.co.jp>

1 . 第2四半期連結決算概要

2 . 今後の見通しについて

第 2 四半期連結決算概要
2011年2月16日～8月15日

第2四半期業績ハイライト

連結業績

売上高	: 399億63百万円	前年同期比	2.0%
営業利益	: 1億32百万円	前年同期比	1億18百万円改善
四半期純利益	: 2億52百万円	前年同期比	1億 1百万円改善

震災の影響があったが、売上は前年同期と同等になった

販売管理費の削減など、グループをあげた収益構造の改善により
当初予想（第2四半期 営業利益予想 6億円）から赤字幅が縮小

第2四半期（5月 - 8月）は黒字で推移した

1 . 第 2 四半期連結決算概要

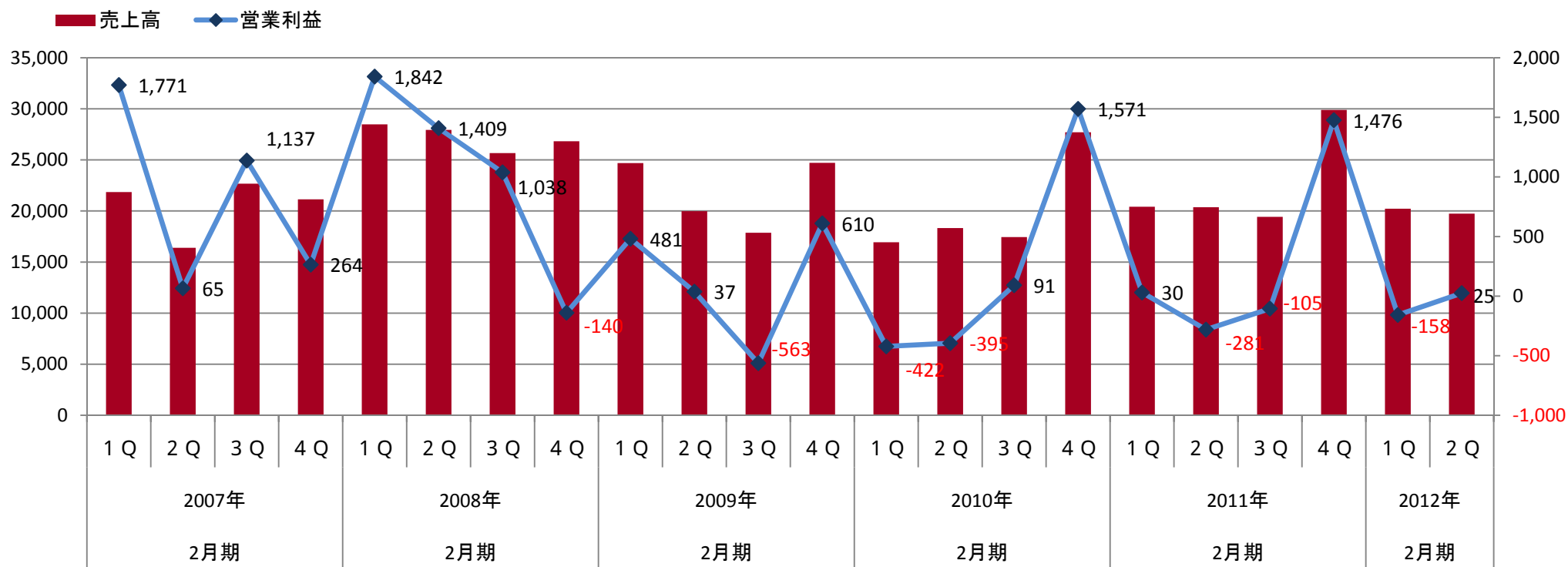
売上高・営業利益の四半期推移

近年は第 4 四半期に売上が集中する下期型の業績推移が続いている

第 1 四半期は震災影響があり、第 2 四半期には固定費の削減効果により利益面で持ち直しをみせた

(単位:百万円)

(単位:百万円)



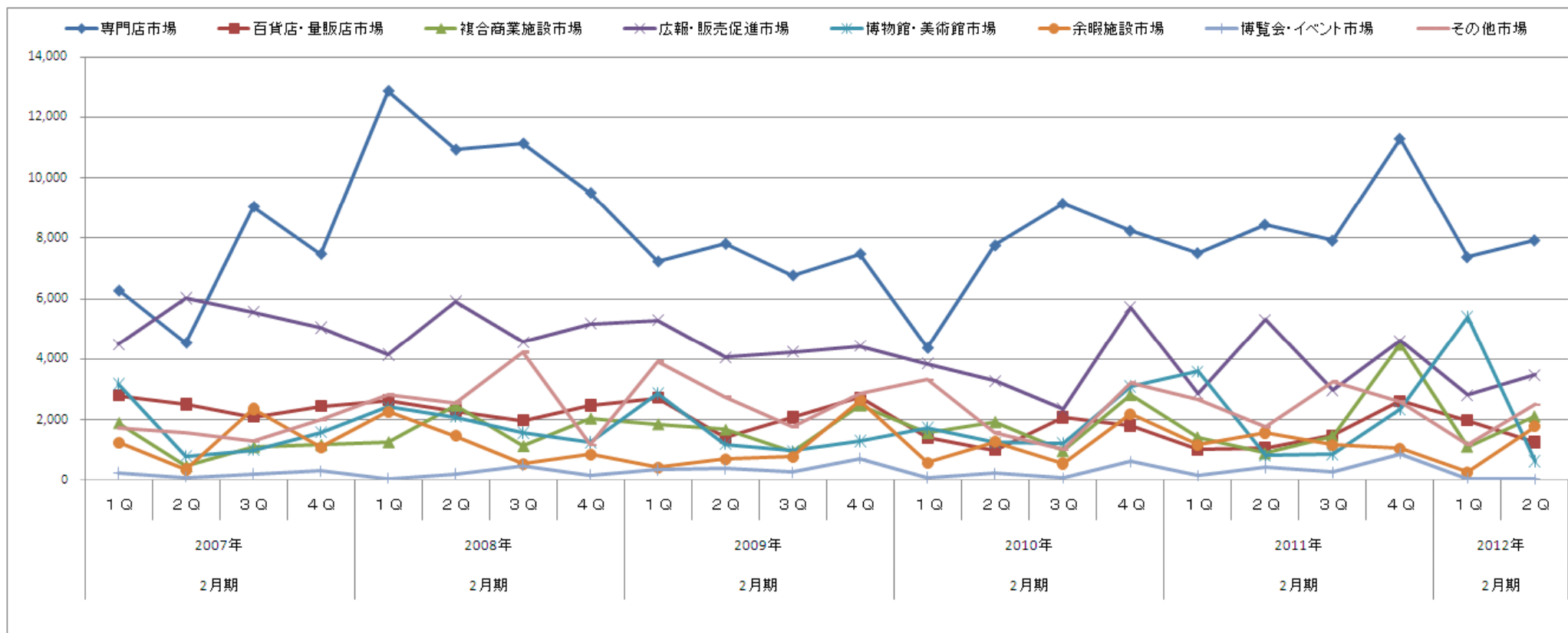
1. 第2四半期連結決算概要

市場分野別の四半期推移

商業施設、展示会イベントのオープニングは、春・秋に集中する傾向がある

一方、オフィスや金融店舗、博物館の運営管理業務など季節に左右されない仕事が増加している

(単位:百万円)



(注)不動産事業と飲食・物販事業はその他市場に含み、掲載しています。

1. 第2四半期連結決算概要

市場分野別の状況

博物館・美術館市場では、大型プロジェクトが竣工をむかえた

余暇施設、博覧会・イベント、その他市場の減少は、前年同期に大型プロジェクトが計上されていたことが要因

(単位:百万円)

＜第2四半期＞	2011年2月期		2012年2月期		売上構成比		ポイント
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	前期	今期	
専門店市場	15,948	31.3%	15,298	△4.1%	39.1%	38.3%	ファストファッション、海外・国内アパレルブランドのほか金融機関の店舗展開など幅広いジャンルを手掛けた
百貨店・量販店市場	2,104	△12.8%	3,240	54.0%	5.2%	8.1%	大阪、名古屋の主要駅周辺の百貨店改装に加え量販店・スーパーの環境演出、内装を手掛け増収
複合商業施設市場	2,325	△33.7%	3,245	39.6%	5.7%	8.1%	主要駅、空港などの商業施設の改装および再開発関連の需要が増加
広報・販売促進市場	8,173	14.5%	6,279	△23.2%	20.0%	15.7%	ハウスメーカー、電機メーカーのショールーム、展示会を手掛けたが震災の影響を受けて減収
博物館・美術館市場	4,417	48.1%	6,042	36.8%	10.8%	15.1%	名古屋市の大規模科学館が竣工し増収
余暇施設市場	2,754	48.3%	2,058	△25.3%	6.8%	5.2%	大手テーマパークや水族館、ホテルの内装・展示を手掛けた
博覧会・イベント市場	595	79.9%	113	△81.0%	1.5%	0.3%	育樹祭など公共のイベントを手掛けたが、大型案件がなく減収、前期は上海万博を計上していた
その他市場	3,525	△8.9%	2,842	△19.4%	8.6%	7.1%	オフィススペースや病院などの環境演出を手掛けた
ディスプレイ事業 小計	39,846	16.4%	39,120	△1.8%	97.7%	97.9%	
不動産事業	243	△8.9%	237	△2.8%	0.6%	0.6%	所有する商業・オフィスビルの賃料収入
飲食・物販事業	692	△9.8%	605	△12.6%	1.7%	1.5%	ミュージアムショップ、物販・飲食店舗の運営
合計	40,782	15.6%	39,963	△2.0%	100.0%	100.0%	

1 . 第 2 四半期連結決算概要

市場分野別の受注状況

受注高の減少は、震災の影響によりメーカーのショールーム、展示会を手掛ける広報・販売促進市場の受注高減少などが主な要因
 受注残高の減少は、複合商業施設市場が再開発関連で伸びているものの、広報・販売促進市場の減少、博物館・美術館における大型プロジェクトの売上計上が要因

(単位:百万円)

<第2四半期>	2011年2月期		2012年2月期		受注高 前年同期比 増減		受注残高 前年同期比 増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高				
専門店市場	17,948	7,994	16,588	6,036	△1,360	△7.6%	△1,958	△24.5%
百貨店・量販店市場	3,071	1,884	3,168	755	96	3.1%	△1,128	△59.9%
複合商業施設市場	3,702	3,177	3,239	5,247	△463	△12.5%	2,070	65.2%
広報・販売促進市場	8,172	3,732	6,537	3,593	△1,634	△20.0%	△138	△3.7%
博物館・美術館市場	3,076	6,338	3,982	4,341	906	29.5%	△1,997	△31.5%
余暇施設市場	1,464	977	2,536	1,517	1,071	73.1%	539	55.2%
博覧会・イベント市場	703	797	237	270	△466	△66.3%	△526	△66.1%
その他市場	4,265	2,746	3,431	2,676	△834	△19.6%	△69	△2.5%
合計	42,405	27,648	39,720	24,438	△2,684	△6.3%	△3,209	△11.6%

(注)不動産事業と飲食・物販事業は受注概念が異なるため、記載していません。

1 . 第 2 四半期連結決算概要

連結損益計算書

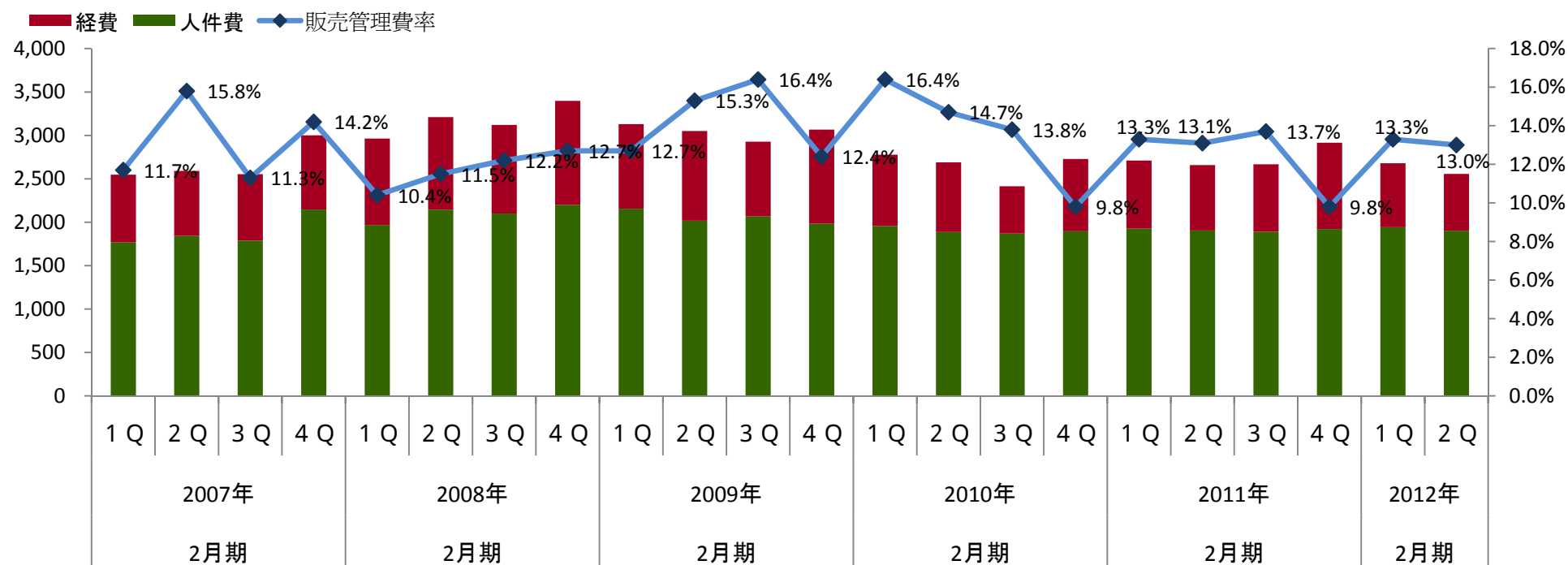
(単位:百万円)

＜第2四半期＞	2011年2月期	2012年2月期	前年同期比 増減率		ポイント
売上高	40,782	39,963	△819	△2.0%	専門店:△6億円/百貨店:+11億円/複合商業+9億円/広報販促△19億円/博物館+16億円/余暇△7億円/博覧会イベント△4億円/その他△6億円
売上総利益(率)	5,118(12.6%)	5,105(12.8%)	△13	△0.3%	総利益率は若干の良化、震災の影響などにより依然として厳しい環境が継続
販売管理費(率)	5,369(13.2%)	5,237(13.1%)	△131	△2.5%	交通費などの営業経費の削減を徹底
営業利益(率)	△250(－)	△132(－)	118	－	経費削減効果により赤字幅縮小 前年同期比1.1億円、当初予想△6億円から良化
経常利益(率)	△152(－)	△96(－)	56	－	
特別利益	11	317	305	2575.7%	受取保険金、ストックオプション失効に伴う戻り入れ
特別損失	86	465	378	435.6%	震災関連(弔慰金・見舞金・義援金・修繕費等)73百万円 前会長退職慰労金・社葬費用1.9億円 過年度給与手当1.6億円
当期純利益(率)	△354(－)	△252(－)	101	－	

1. 第2四半期連結決算概要

販売管理費の四半期推移

(単位:百万円)



経費	779	748	765	855	996	1,066	1,021	1,197	974	1,033	861	1,083	822	801	545	832	783	753	776	993	736	654
人件費	1,768	1,843	1,789	2,146	1,968	2,145	2,100	2,200	2,156	2,017	2,067	1,984	1,956	1,888	1,869	1,896	1,927	1,906	1,891	1,922	1,943	1,903
販管費	2,548	2,591	2,554	3,000	2,964	3,211	3,122	3,397	3,131	3,050	2,927	3,068	2,778	2,689	2,415	2,728	2,710	2,659	2,668	2,915	2,680	2,557

1 . 第 2 四半期連結決算概要

連結貸借対照表

(単位:百万円)

		2011年2月期	2012年2月期 第2四半期	前期末比 増減		ポイント
資 産	流動資産	29,465	23,148	△6,316	△21.4%	現金・預金+12.6億円:前期末の売上債権回収によるもの 受取手形及び売掛金△72.7億円:売上債権の回収に伴い減少
	固定資産	23,396	22,776	△620	△2.7%	減価償却累計額△1.2億円 投資有価証券評価差額等△2.5億円
	資産合計	52,861	45,924	△6,937	△13.1%	
負 債 ・ 純 資 産	流動負債	21,798	16,041	△5,756	△26.4%	支払手形及び買掛金△50.5億円:期末月の仕入の減少 未払法人税等△6.3億円:前期分の法人税等の納付 前受金:△4.3億円:博物館の大型案件の完工によるもの
	固定負債	6,384	5,922	△462	△7.2%	役員退職慰労引当金△1.7億円:役員の異動によるもの 繰延税金負債△1.0億円:有価証券の時価下落に伴う税効果相 当額の減少
	負債合計	28,182	21,963	△6,218	△22.1%	
	純資産	24,679	23,960	△718	△2.9%	利益剰余金△4.7億円:配当金の支払いと当期純損失 その他有価証券評価差額金△1.8億円:有価証券の時価下落
	負債純資産合計	52,861	45,924	△6,937	△13.1%	

1 . 第 2 四半期連結決算概要

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

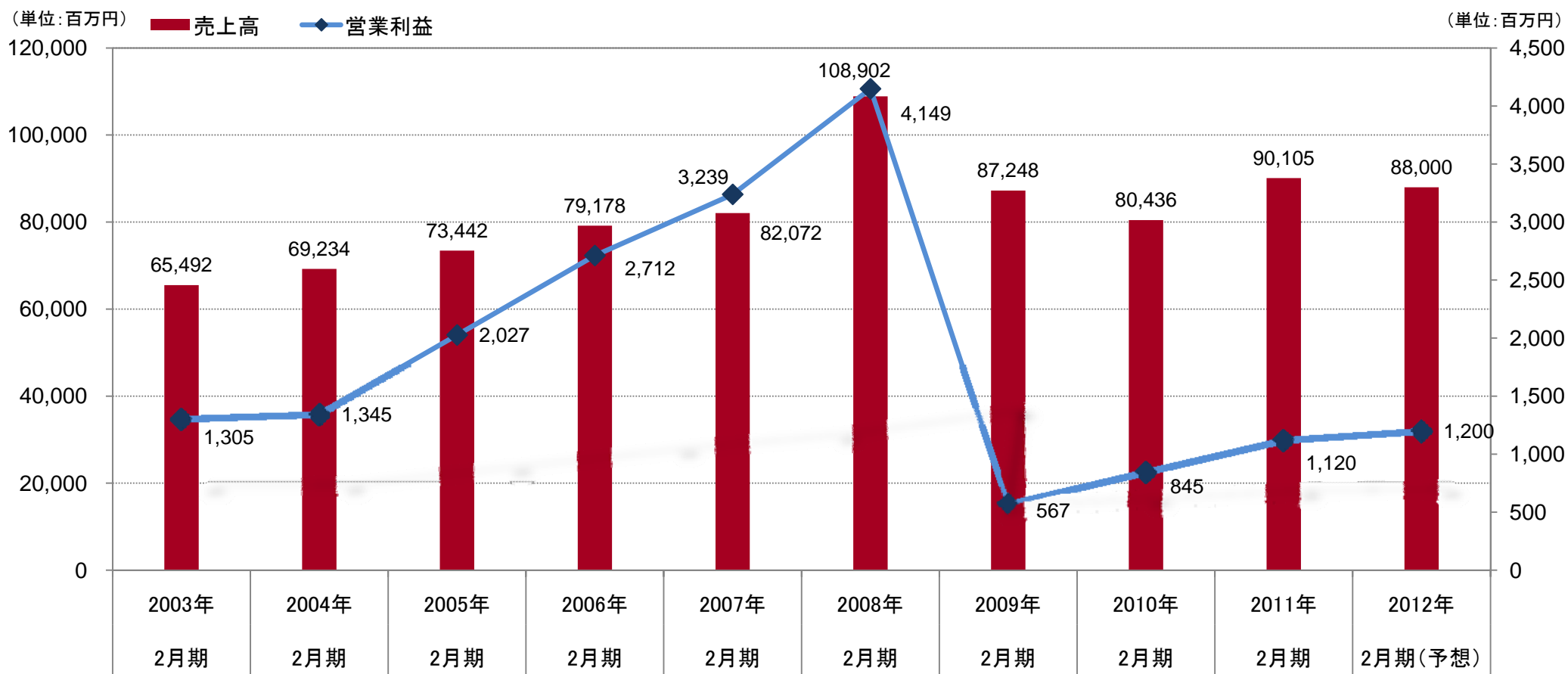
<第2四半期>	2011年2月期	2012年2月期	ポイント
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,914	1,795	売上債権の減少額72.6億円 : 受取手形・売掛金の回収 たな卸資産の減少額84百万円 : 仕掛品の減少 仕入債務の減少額:51.0億円(△) : 支払手形・買掛金の減少 前受金の減少額4.4億円(△) : 博物館の大型プロジェクト竣工 法人税等の支払額:7.3億円(△)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△87	△248	有形固定資産の取得による支出78百万円(△) 投資有価証券の取得による支出51百万円(△) 長期預り保証金の返還による支出159百万円(△)
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,277	△216	配当金の支払額2.1億円(△)
現金及び現金同等物の増加額	2,554	1,328	
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,240	2,324	

今後の見通しについて

2. 今後の見通しについて

通期業績の推移

通期業績予想
売上高 880億円 (前期比 2.3%減)
営業利益 12億円 (前期比 7.1%増)



(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

2. 今後の見通しについて

2012年2月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	2012年2月期 業績予想	2012年2月期 第2四半期	通期予想に対する進捗率
売上高	88,000	39,963	45.4%
営業利益	1,200	△132	—
経常利益	1,300	△96	—
当期純利益	650	△252	—

配当の状況

	2010年2月期	2011年2月期	2012年2月期
第2四半期末 1株当たり配当金	4円	4円	0円
期末 1株当たり配当金	4円	4円	(予想)8円
配当性向(連結)	111.6%	111.0%	68.7%

(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

2. 今後の見通しについて

市場分野別の計画

(単位:百万円)

	2011年2月期		2012年2月期	
	実績	構成比	計画	構成比
専門店市場	35,142	39.0%	34,000	38.6%
百貨店・量販店市場	6,209	6.9%	6,000	6.8%
複合商業施設市場	8,294	9.2%	11,000	12.5%
広報・販売促進市場	15,761	17.5%	14,000	15.9%
博物館・美術館市場	7,631	8.5%	8,000	9.1%
余暇施設市場	4,987	5.5%	3,500	4.0%
博覧会・イベント市場	1,762	2.0%	1,500	1.7%
その他市場	8,269	9.2%	10,000	11.4%
ディスプレイ事業 小計	88,059	97.8%	—	—
不動産事業	491	0.5%	—	—
飲食・物販事業	1,553	1.7%	—	—
合計	90,105	100.0%	88,000	100.0%

(注)実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

(注)2012年2月期の計画につきましては、不動産事業と飲食・物販事業をその他市場に含み、掲載しています。

市場環境について

ディスプレイ業界

- ・ディスプレイ業界の市場規模は、1兆5,000億円前後と推定され、企業の設備投資や宣伝広告活動に影響を受ける
- ・リーマンショック以降の下降局面から今年に入って回復の兆しをみせていたが、その矢先に東日本大震災が発生
- ・顧客企業は震災の影響から徐々に立ち直りつつあるが、昨年同様に依然として厳しい価格競争が継続

乃村工芸社の状況

- ・ディスプレイ業界におけるシェアは業界トップ、企画・デザイン力において業界内で高い評価
- ・流通小売、大手メーカーを中心に各業界のトップ企業が主要顧客
- ・上期は大手メーカーの広報・販売促進支援をおこなっている広報・販売促進市場において震災の影響が発生
商業施設分野については、来年以降も再開発案件が控えており、専門店の出店も堅調
- ・受注・引合案件に関して、上期にはイベントなどの延期・中止の影響があり、下期は商業系の大型プロジェクトの納期ズレが発生
震災の発生により期初計画から売上ベースで60~70億円程度の影響があったと試算
- ・復興の支援として、東北支店(仙台市)が先頭になり商業施設をサポート
今後、大手メーカーとともに復興支援を展開していく予定

2011-2013 中期経営計画

ノムラグループは、これからの3カ年で「アカウントサービスの徹底」「空間創造 & 活性化事業の強化」「国際企業化の加速」を実現し、『選ばれるノムラ』を目指します

NOMURA Challenge 201-1.2.3

1

アカウントサービスの徹底
「ひとつになる」

2011年～

お客様ニーズを捉えた提案ができるノムラへ

2

空間創造 & 活性化事業の強化
「創りそして活かす」

2011年～2012年

お客様とともに最適な価値を提供できるノムラへ

3

国際企業化の加速
「世界を目指す」

2011年～2013年

世界中のお客様から常に選ばれるノムラへ

Challenge 1

2011年
アカウントサービスの徹底
「ひとつになる」

ノムラ全体像（総合力）の見える化

安定的な取引をいただけるクライアントへの選択と集中

お客様ニーズを捉えた提案ができるノムラへ

Challenge 2

2012年
空間創造 & 活性化事業の強化
「創りそして活かす」

クライアントメリットを最大化する

民と官がコラボレーションした“まちづくり”

お客様とともに最適な価値を提供できるノムラへ

Challenge 3

2013年
国際企業化の加速
「世界を目指す」

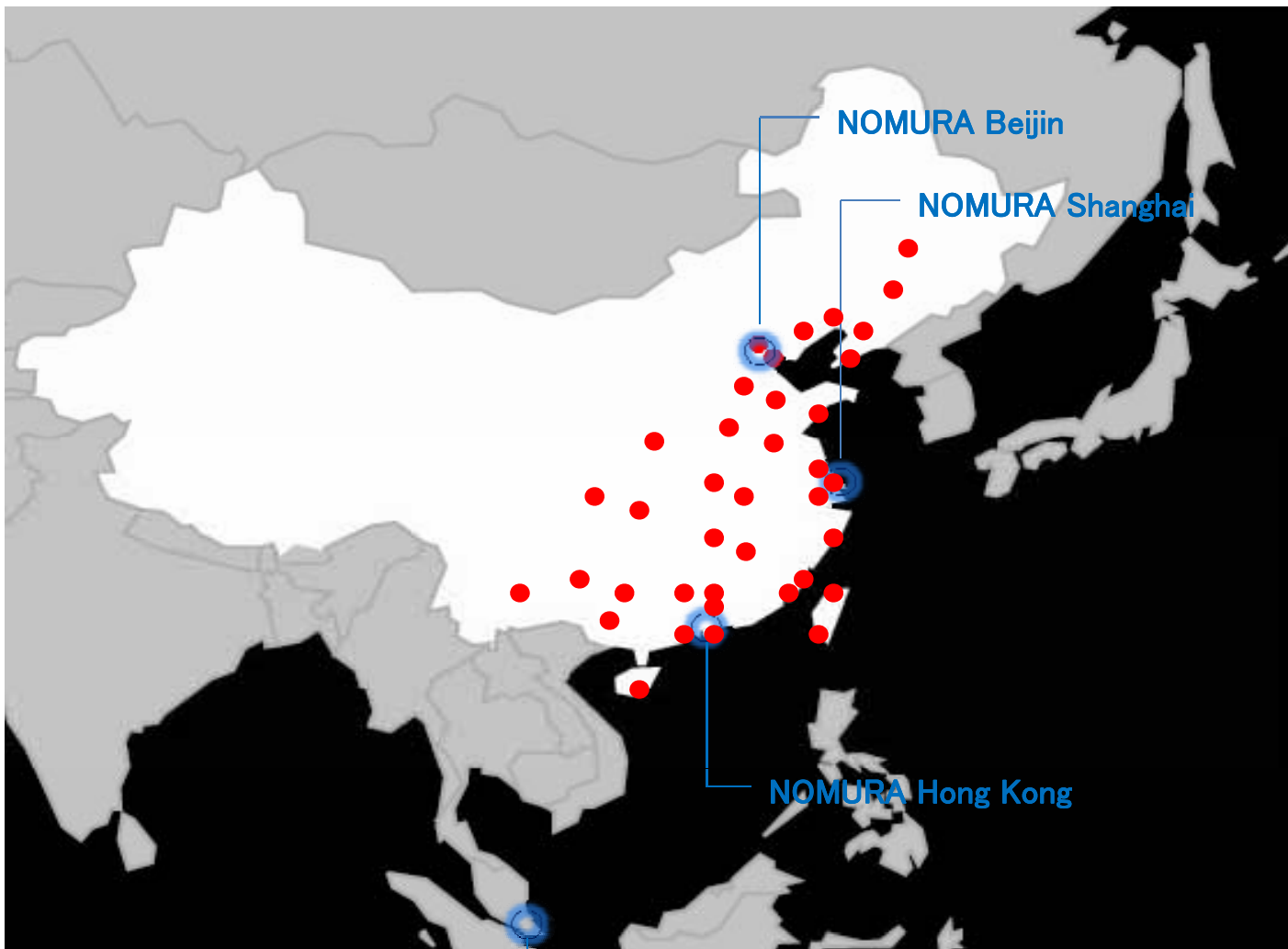
優位性のあるクリエイティブ力でアジアにおける地位を固める

現地法人をハード（施工）サプライヤーと位置付け、現地工場を買収・提携

世界中のお客様から常に選ばれるノムラへ

中国国内34都市+香港・マカオ・台湾 納品実績

- 北京 Beijing
- 上海 Shanghai
- 瀋陽 Shenyang
- 南京 Nanjin
- 成都 Chengdu
- 広州 Guangzhou
- 深圳 Shenzhen
- 海南 Hainan
- 杭州 Hangzhou
- 西安 Xian
- 天津 Tianjin
- 武漢 Wuhan
- 大連 Dalian
- 沈阳 Shenyang
- 长春 Changchun
- 石家庄 Shijianzhuang
- 哈尔滨 Harbin
- 济南 Jinan



- 青島 Qingdao
- 郑州 Zhengzhou
- 台州 Taizhou
- 长沙 Changsha
- 南昌 Nanchang
- 昆明 Kunming
- 贵阳 Guiyang
- 柳州 Liuzhou
- 南宁 Nanning
- 重庆 Chongqing
- 厦门 Xiamen
- 东莞 Donggnan
- 唐山 Tangshan
- 泉州 Quanzhou
- 徐州 Xuzhou
- 合肥 Hefei
- 香港 Hong Kong
- マカオ Macau
- 台湾 Taiwan

NOMURA Singapore

中期重点方針

継続的な収益基盤の安定

飛躍的な生産性の向上

多様なビジネスモデルを組み合わせることで

飛躍的な生産性の向上を図り

継続的な収益基盤の安定を目指します

2. 今後の見通しについて

中期3カ年の業績目標

